

議事録

会議名 第1回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会			
日時	平成29年5月31日(水) 15:00～16:30	場所	矢板市役所3階 第1委員会室
出席者	矢板市：齋藤市長、三堂地総務課長、谷中、船山、兼崎 策定委員会：陣内雄次、中村久信、佐貫薫、佐藤勤、島田次秀、東泉清寿、和気文輝、石川幸夫、渡邊清二、宮崎博、海瀬元之、大島政一、中嶋加代子、笹沼卓夫、三好良重、中村恵子 BHC：池淵、松田、渡部		
議題	公共施設再配置計画策定年次計画 公共施設再配置計画策定について その他	資料	再配置計画構成案 公共施設再配置計画関係資料 他数点
議事次第・資料		協議内容	
1. 概要	1 開会 2 委嘱状交付 3 市長あいさつ 4 委員・職員紹介 5 委員長・副委員長の選出について 6 議事 (1) 矢板市公共施設再配置計画年次計画 (2) 矢板市公共施設再配置計画策定について (3) その他 7 閉会		
2. 市長あいさつ	<p>昨年度、公共施設の現状を具体的に示した「矢板市公共施設白書」、そして今後30年間の公共施設のあり方を示した「矢板市公共施設等総合管理計画」を、相次いで策定した。今回、その中で掲げた、公共施設40%の削減目標の実現に向け、「矢板市公共施設再配置計画」を策定することになった。</p> <p>矢板市においては3つの中学校、9つの小学校があり、計116学級で2,594人、1クラスあたり22.3人の児童生徒数が学んでおり、塩谷地区2市2町で、学校数として1番多く、クラス人数として1番少ない数字となっており、他市町と比較しても校舎等の維持管理や施設整備に多くの予算が必要となる。</p> <p>また、「公営住宅」については、民間アパート等の空き室が目立つ中、638戸を管理しており、100世帯当たりと比較すると県内で最も多い戸数を管理している。</p> <p>このような厳しい状況のもとで、計画の策定にあたっては、現在利用している施設について、廃止を含めて検討しなければならない大変厳しいものである。策定委員の皆さまには大変難しい判断をいただくことになるが、持続可能な矢板市づくりのために欠かせない計画づくりでありご協力願いたい。</p>		
3. 委員長・副委員長の選出について	委員長 学識経験者 陣内雄次氏 副委員長 市議員 中村久信氏を選任		

<p>会議名</p> <p>第1回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会</p>	
<p>4. 矢板市公共施設再配置計画策定年次計画</p>	<p>■策定スケジュール案について 事務局:今年度中の計画策定を目標として、計画決定までに計5回の策定委員会の開催を予定している。 また、計画策定にあたっては市民から理解を得ることが重要と考えており、逐次、内容の公表を進めていきたい。また、シンポジウム、パブリックコメントの実施も想定しており、シンポジウムについては8月頃に、パブリックコメントについては、4回目の委員会で原案を固めた段階で実施し、5回目の委員会で内容の検討を行いたい。 なお、計画の原案については、施設を管理する庁内関係課職員で構成する策定部会で協議を行い、原案を策定、委員会で審議いただくことになる。</p> <p>■情報発信方法について 事務局:前回の管理計画策定の際に情報発信を積極的にという意見を頂いており、今回は、ホームページ及び広報にて情報発信を行っていく予定である。 副委員長:情報発信については受け取ってもらえなければ意味がない。その部分をどうするかを検討していきたい。 委員:情報発信を積極的にということであるが、昨年行ったパブリックコメントの結果はどこで確認できるのか。 事務局:市のHPで公表している。 委員長:管理計画は後ろ向きな内容と感じられているかもしれないが、やらなければならないものである。今後の矢板市まちづくりにつなげていきたいと考えているのでぜひ協力して頂きたい。</p>
<p>5. 公共施設再配置計画の策定について</p>	<p>■計画の位置付けについて 事務局:個別計画の上位計画として再配置計画を策定し、再配置計画策定後、関係各課が個別計画策定を進めていく。計画期間は30年間を想定している。ただし個別計画は不確定要素もあるため、10年ごとに区切って進めていく予定である。また、5年ごとに見直しを図っていく予定である。なお、道路、水道等のインフラは対象外とする。</p> <p>■40%の削減目標について 事務局:総合管理計画の中で、普通会計建物の更新費用について40年間で816億円、インフラを含む施設全体の更新費用として1,695億の費用が必要と試算された。財政シミュレーションでは、30年間で施設関連費用に充当可能な額が721億円、施設の維持更新に必要な金額が1,262億円で、535億円の財源不足が見込まれている。これを公共施設の削減で賄うとした場合に建築物の延床面積で40%の縮減が必要となり、市の財政状況から40%の施設削減を目標と定め、計画を策定していく必要がある。</p> <p>■再配置の進め方 事務局:再配置の基本方針として、「施設総量の最適化」「行政サービス水準の維持・向上」「公共施設の安全・安心を確保」の3つを掲げ、施設ごとに、廃止、譲渡、貸付、長寿命化、更新、統合等、具体的な方向性を検討していく。 BHC:施設毎の再配置方針を検討するにあたっては、5つのステップに従って進めていきたいと考えている。</p> <p>【ステップ1】 「保有施設の現状把握」として地域を横軸に、施設分類を縦軸に据えてどの地域にどんな種類の施設があるのか確認し、地区ごとでの保有施設の現状把握を行う。</p>

<p>会議名</p> <p>第1回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会</p>	<p>【ステップ2及びステップ3】</p> <p>「施設評価手法の検討」及び「施設評価の実施」として、事業内容、利用者、ネットコストなど5つの評価基準をもとに施設の必要度を、施設耐用年数、補助金の制約期間、キャッシュ・フローなど4つの評価基準をもとに対応時期を施設ごとに機械的に点数付けし、必要度の評価視点と対応時期の評価視点の2軸を用いて判断していく。</p> <p>ただこのままでは客観的な点数付けに過ぎないので、矢板市として今後どうしていきたいのかという思いを加える必要がある。具体的には各評価視点の内、どれに重きを置くのかといった部分を変える形で各施設の方向性を検討していく。</p> <p>【ステップ4】</p> <p>「再配置手法の選択」として、ステップ3までの結果をもとに各施設の方向性を、施設評価フローなどを用いながら決定していく。</p> <p>【ステップ5】</p> <p>「再配置計画の策定」として、ステップ4で決定した各施設の再配置の方向性を一覧化する。また、今後の個別施設計画や再配置の実施につなげるためのロードマップ等を作成する。</p> <p>BHC:面積縮減目標 40%という数値は、削減することが難しい大変な数値である。実際に弊社で策定を支援した某市では50%という目標であったが達成が難しく、基金を積み立てるといった対応を行っている。必ずしも削減するだけではなくそういった対応もあるということを認識頂ければと思う。</p>
<p>4. その他(質問等)</p>	<p>■評価視点について</p> <p>副委員長:評価視点の中で、「利用度」というものがあるが、不特定多数が利用している施設と特定の利用者だけが利用している施設とがあると思う。そういったことは加味されるようになっているのか。</p> <p>BHC:基本的には全施設一律に比較するのではなく、同じ分類内で偏差値をとり比較するつもりである。つまり同じような用途で使われている施設同士を比較するので、使われ方の違うものはほとんど除かれると考えている。</p> <p>委員:「対象地区の人口の見通し」というものがあるが、男女別年齢別などの推移を加味する必要があると思われるのだがいかがか。</p> <p>BHC:公共施設白書・総合管理計画の時に使用した人口推計をベースに配点を考えたいと思っている。</p> <p>■財政シミュレーションについて</p> <p>副委員長:歳入のシミュレーションではあまり歳入が減っておらず、歳出のシミュレーションはあまり増えていないが、これは人口の減少などを精緻に反映して作ったものと捉えてよいのか。</p> <p>事務局:平成24年度から平成27年度までの決算状況と、人口の推移をかなり精査して掲げた数値である。</p> <p>■矢板市の将来像との関連について</p> <p>委員:学校施設と公営住宅が特に多いということだが、大きいところを対処しないと問題は解決しない。特に重要なのは矢板市の将来像と一緒に議論しないと魅力がなくなって人口が減ることである。</p> <p>事務局:おっしゃる通りで、一律に平均的に40%削減するのではなく、市の総合計画などと関連づけして、施設の複合化などを行い魅力ある矢板市を作っていきたいと考えている。そのためには皆さんの考える矢板市の将来像など忌憚のないご意見もいただきたいと考えている。ただし市営住宅は入居率も低く数も多いので手を付けていかなければと考</p>

会議名

第1回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会

えている。

■施設の再配置方向性について

委員:集約化というのは非常に重要であると思われる。ちなみに「再配置計画構成案」の中では、「給食共同調理場については原則廃止」と書かれているが、管理計画では集約化していくというような内容だったと思われるのだが、どういうことか。

事務局:「再配置計画構成案」については、このような形で再配置計画を作りますよというサンプルでしかなく、今後内容を検討・編集していく予定であるので、そのように認識頂きたい。

■指定管理者の施設について

委員:矢板市の指定管理者の施設数は標準的なのかそれとも多いのか。

事務局:矢板市は、ほかの周辺自治体には無い文化会館施設など抱えており、施設数も多く、積極的に指定管理者制度を導入しており、導入件数は多いと考える。

■策定委員会の位置づけについて

委員:検討部会にて検討したものが策定委員会へ降りてくるという考えでいいのか。そうだとすると、市長が会議に入ってトップダウンでやらないと40%の削減は達成できないのではないか。

事務局:おっしゃるとおりである。策定委員会にて身内以外の皆さんの考え方を最も尊重するという方針で進めていき、議会まで上げていきたいと考えている。

■削減目標を達成したとして

委員:削減目標の40%を達成したとして、そうなった場合には公共交通機関を充実させるなどについて考えていく必要がある。ただ削減するだけではなく、その削減したことにより不便になる部分をどうするのかといった部分も検討して明確に記していないといけないと思われる。総合計画等へ盛り込めるようなまちづくりの計画として見通していったきたい。

■矢板市のまちづくりビジョンの理解について

委員:まちづくりのビジョンを策定委員が理解していないと話が進まないと思われる。文章等で示していただき理解を深める必要がある。また、対象となっている施設等を視察して施設の実態について理解する必要があるのではないかと。

事務局:実は視察についても検討していたが、委員の皆さんの都合がつかないのではというところを懸念していた。

委員:会議のための会議では無駄になってしまう、結論を出すために集まっているので視察を行うことはやぶさかではない。

事務局:承知した。日程の調整等検討したいと思う。

■議会の説得について

委員:議会にてどうしてもやはりここで出た意見について、反対意見などが紛糾すると思われる。その点をどのようにするのかといったところが不安である。

副委員長:その点については我々2人が代表として出るので、ここでの意見を尊重して議会へ伝えていきたいと考えている。

■将来を担う人々の意見

委員:30年の計画期間であるが、将来を担う子供たちの意見をどのように取り込んでいくのか、どのように巻き込んでいくのかというところに懸念がある。シンポジウムを行うとのこと

会議名

第1回 矢板市公共施設再配置計画策定委員会

だが、シンポジウム形式等で意見を集約していくことは難しいと思われる。
委員長:いまのところシンポジウム等で意見を吸い上げることを考えているが、確かにもう少し充実させるよう他の方法についても検討していきたい。